



日本共産党 京都市会議員
ひぐち英明
議会報告

みなさんのご意見・ご要望をお寄せください！

こんにちは ひぐち英明です

第318号 2017年7月1日

連絡先：日本共産党左京地区委員会 Tel.761-6341

HP：

：左京生活相談所

Tel.781-6622

敬老乗車証の改悪方針の具体化に着手か 市民への負担増は許さない



敬老乗車証を守る市民の会

敬老乗車証の改悪方針を具体化させる動きが出始めています。

京都市は、4年前の2013年に、乗るたびにごとに一定額を支払う方式への改悪方針を打ち出しましたが、現行の敬老乗車証を守ろうという市民の運動が広がり、議会でのわが党の論戦もあいまって、今年も改悪を許していません。

ところがです。6月21日に開かれた教育福祉委員会で、あらためて見直しの「検討を進め」る、つまり、改悪方針の具体化に着手することを発表し、当面は、「財政上の課題」等を市民に知らせるとしています。今後、市民しんぶんをはじめ、あらゆる機会を通じて、敬老乗車証が京都市財政をどれだけ圧迫しているか、といった宣伝が行われることが予想されます。

しかし、貧困と格差が広がり、市民の生活が厳しさを増す中で、福祉を切り捨てる方針を許すわけには行きません。高齢者は、年金が次々と削られ、医療も介護も負担増、来年度は医療・介護の更なる大改悪が進められようとしています。市長が高齢者にこれ以上の負担の押し付けを行おうとしていることに、私は怒りすら覚えます。苦しい市民生活の実態に寄り添い、福祉は何としても削らないという立場に立つことこそ、市長に求められています。

また、国が福祉・社会保障の切り捨てを行うと同時に、自治体への交付金などをへらし厳しい財政を地方に押し付けてきているのですから、このそもそもの原因をつくっている国に対して方針を転換するよう強く求めることが必要です。

敬老乗車証の改悪を許すな、の声をさらに大きく広げていきましょう。

医療・介護・福祉の拡充を求めて 「いのちを守る署名」がスタート

「府民みんなのいのちを守る要請署名」が始まっています。この署名は、①医療・福祉施策の充実、②医療・福祉の負担増の中止と負担軽減策の実施を、京都府と国に求めるものです。

この間、高齢者の医療費負担は増やされる、介護保険は保険料が値上げされる一方で要支援の方がデイサービスなどを使え

なくなる、子どもの医療費は3歳になったら有料の制度が続けられている、高すぎる国民健康保険料が払えない方も多のに高止まりのままなど、医療・福祉をめぐる状況は厳しさを増しています。さらに、来年度には、医療・介護の大改悪として、入院患者さんを無理やり減らす計画や、介護保険の利用料を3割へと負担増を押し付ける計画などが具体化されようとしています。そして、その司令塔の役割を京都府に担わせることになっています。

国が医療・福祉の更なる大改悪を押し付けようとし、その司令役を知事に担わせるというのですから、今の知事のように、なんでも国言いなりで国と一緒に社会保険の切り捨てを行ってきた府政を転換する必要があります。署名を大いに集め、医療・福祉の充実を勝ち取りましょう。

共謀罪は廃止を！



国民の声も国会のルールも無視して共謀罪が強行採決されました。あきらめるわけには行かないと、6月18日に市役所前集会(右)、6月19日は左京みんなのデモ(左)で、共謀罪を廃止させよう、とアピールしました。

○ ひぐち英明 ホット・コム ミニ版 ○

長女(高校3年)が、学校でパイプイスを運んでいる時に、手を滑らせて足の上に落とし、足首を痛めました。

次の日の夜、妻が長女の足首がまだはれているのを見て、触ってみると熱を持っていました。妻が長女に「まだ熱を持っているなあ」と声をかけると、長女が不思議そうに「なんでやる。蚊にでもさされたのかなあ」などと答えていました。前日にイスを落としたことはすっかり忘れていたようです。まったくのん気な、長女さんです。